

# おとうさんのだいじなおと

片山 壱かたやま いち

ビデオビデオとテレビのけいこくんがなった。

いつもわらっているおとうさんがテレビをみてしんけんをおおをしている。おかあさんはふあんそうなかおでおとうさんをみている。

ちいさいころはそれがなんのおとなのかまだわからなかった。でも、いまはすこし、わかる。かんじはよめないけれど、そのおとがおとうさんにとって、だいじなおとなだと、わかるようになってきた。

すぐに、おとうさんは、めいさいふくにきがえてあつというまにいえをでていく。ぼくは、いつも、だいじょうぶかなと、しんばいになる。

「だいじょうぶ？」

と、きくとおとうさんはかならず、

「きにするな、おとうさんにまかせろ」

と、いつてあたまをよしよししてくれる。けれど、そのですこしいたんだよね。

そうやってしごとにくくとなんにちもかえつてこなくなる。

テレビにじえいたいさんがいつばいうつってみんなどろだらけだ。あせもたくさんかいている。おおきなきをはこんだり、みずのなかにはいつておばあちゃんをおんぶしたりしている。

おとうさんは、ちからがすこくつよいんだ。こまっているひとをたすけたり、うでたてふせをしたりしてからだをきたえている。そのせなかにのるのがたのしいんだよね。ぼくとおとうとが、せなかにのつてもピクともしなくてすごいんだ。かつこよくてぼくのじまんなんだ。

ぼくも、おおきくなつたら、おとうさんみたいにからだをきたえて、こまっているひとをたすけるんだ。そのためにごはんをたくさんたべておおきくなるんだ。

おとうさんにはまけないぞ。

「ただいま」

おとうさんがかえつてきた。いまからおふろでいつばいおはなししていつばいあそぶんだ。

おとうさんきょうもおつかれさま。